

## 第3回「土曜日における学校教育の在り方」分科会 概要

### 1 日 時

平成23年10月27日（木）午前9時30分～10時20分

### 2 場 所

ホテルルビノ京都堀川「大原」

### 3 出席者

委 員 山口分科会長、芦田委員、卯瀧委員（メンバー）  
加賀爪委員（準メンバー）

事務局より：○ 修正モデル例の提示…すでに提案している12案の内1案を修正、さらに2案を追加した14案を提示。  
○ 実践研究の在り方について「土曜日を活用した教育の在り方実践研究事業（仮称）」実施要項（案）を提示。

### ■ 意見交換・協議

#### <修正モデル例について>

- ◇ モデル例全体の説明シートに、マトリックスだけでなく趣旨説明を追加。
- ◇ 「もうひとつの小さな研修旅行」について、土曜に飛び飛びにやっていくことによる効果や受け入れる事業所の都合など十分考慮する必要がある。選択肢や可能性を広げるというメリットはある。
- ◇ 「研究発表会」の名称だと教員が主体という印象があるが、内容的には生徒が主体であり、「学習発表会」などのネーミングのほうが適している。
- ◇ 「スクール・ライフ・ガイダンス」は、学習だけでなく、保護者の取組や交流行事など、多様な想定。各校で必要に応じて選べばやりやすいのではないか。人間関係、コミュニケーションの力を高めるような視点も盛り込んでほしい。保護者もこういう場に参加すれば、子どもが学校でどんなことをするのかよくわかると思われる。
- ◇ 「秋のフェスティバル」など、幼稚園と小学校のつながりを考えることも大切。公立幼稚園がない市町もあり、連携の在り方・進め方に工夫が必要である。幼児期の子どもの教育についてどのように折り込んでいくか、研究を進める中で検討して行く必要がある。

る。

### ＜実践研究の在り方について＞

- ◇ 実践研究校について、各学校がバラバラに実施するのではなく、中学校区実施するなど、一定の単位で実践研究を行ったほうがよい。また、郡部では通学に利用するバスが土曜日に運行されているかどうかなどの事情にも配慮が必要。
- ◇ 社会教育関係団体等との十分な調整が必要である。学校単位で調整するのは難しい面もあると思われる。
- ◇ すでに予算化されている事業を充実するものはよいが、新規の取組については保険や講師招聘等に係る経費が必要になる。
- ◇ 社会総がかりで取り組む教育という土曜活用の理念があるので、趣旨や実施方法の中に“地域の力を借りてやっていく”ということを明記しておく方が望ましい。
- ◇ 取組の効果の整理は必要であり、実績報告について明記すべきである。教職員や保護者のアンケートなどによる検証ができればよりよい。
- ◇ 「公開授業であること」と記されているが、「地域や保護者に公開されていること」「公開事業であること」などとする方がよいのではないか。
- ◇ 小学校の特に低学年では、週によって時間割が変わるよりも、生活リズムが保持しやすいように週時程を工夫することが大切である。